

講義名	生徒・進路指導論【教職科目】			授業形態	
担当教員	川合 宏之	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本授業では、学校教育の全領域における生徒指導、進路指導の原則と指導方法を検討し、学校教育における生徒指導のあり方を探求する。生徒指導について深く理解できるよう、時事的な話題を盛り込みながら、様々な問題と課題および実践的方法を紹介する。
特に、学校現場における問題行動、いじめや不登校等の現実的な課題、並びに近年進路指導の中核となりつつあるキャリア教育の意義と課題等について、事例研究をもとにした授業を展開し、その要因や原因を的確にとらえるとともに、具体的な対応策、指導の在り方などを学ぶ。

到達目標

本授業は、高等学校教諭一種免許状を取得するための必修の科目である。学校教育の全領域における生徒指導と進路指導の理論と指導方法を検討し、学校教育における生徒指導・進路指導の在り方を探究する。

- ・生徒指導の定義と考え方、教育活動上の機能について説明できる。
- ・現代的な生徒指導上の諸問題について、現状を分析し対策を説明できる。
- ・生徒指導の基礎である児童生徒理解をすすめるための適切な態度や方法を説明・実践できる。
- ・積極的に他者と議論し、教育実践の改善・高度化をめざす態度が形成される。

提出課題

授業時に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・演習・課題レポートについては、評価し授業の中で返却するとともに、要点や模範解答について解説する。
- ・返却しないものについても授業の中で模範解答の解説と講評を行う。

評価の基準

講義内容の理解度を確認するため、数回のレポート課題を与え、提出を求め、評価は、レポート内容、講義中の発表内容に基づき総合的に行う。

課題レポートおよび発表内容（50%）、授業への参加度・積極性（50%）により総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めない。
- ・積極的に発言し、受け身の授業にならないようにしてほしい。

教科書

・使用しない。

参考図書

その他

「高等学校学習指導要領 総則編」（文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説 総則編」（文部科学省）
「生徒指導要領」（文部科学省）
「高等学校キャリア教育の手引き」（文部科学省）
河村京徳編著「生徒指導・進路指導の理論と実践」（図書文化）
川合宏之著「高校生と大学生がともにつくる高大連携授業 ナナメの関係が高校生にどのような影響を与えるのか」（晃洋書房）
その他、必要に応じて資料を配布する。

授業計画

- 第1回：生徒指導の意義と役割
- 第2回：教育課程での生徒指導の生かし方
- 第3回：生徒指導の方法（教師と生徒の人間関係づくり）
- 第4回：教育相談理論と方法（生徒指導と教育相談）
- 第5回：問題行動に対する対応（いじめ）
- 第6回：問題行動に対する対応（不登校）
- 第7回：問題行動に対する対応（非行）
- 第8回：生徒指導の法的側面（体罰・懲戒の種類・懲戒の手続き）
- 第9回：生徒指導と地域、家庭、関係機関との連携
- 第10回：進路指導・キャリア教育の意義と課題
- 第11回：進路指導・キャリア教育の理論
- 第12回：キャリア教育のカリキュラム開発と実践的な指導の工夫
- 第13回：高等学校のキャリア教育（インターシップの展開と課題）
- 第14回：高等学校のキャリア教育（生徒理解と自己実現）
- 第15回：高等学校のキャリア教育（進路相談、キャリアカウンセリング）

（注）項目や順序を入れ替えることがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ケースを活用した討論に備えるための予習及び、指導方法等の準備学習を課す。（2時間程度）
- ・ケースメソッドにおけるグループ討議のための事前課題及びテーマに基づくレポートの提出、フィードバックによる修正等の課題を課す。（2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は、高等学校教諭一種免許状を取得するための必修の科目である。学校教育の全領域における生徒指導と進路指導の理論と指導方法を検討し、学校教育における生徒指導・進路指導の在り方を探究する。授業では「生徒指導理論とキャリア教育の手引き」等をベースとしながら、さらに発展的な内容や視点を取り入れて「生徒指導・進路指導」にアプローチする。したがって、教科書・参考書に示したものを以て、自身の課題意識に応じて文献を収集し学習することが必要となる。そのような学習を通して、本学の教育目的でもある「問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想する能力」や「知識や理論を発展させ、実践的なスキルに転換する力」を養うことで、学校や地域社会が抱える教育課題を発見し解決に取り組みを身に付けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教育力を持った学習集団を育成するには、見通しを持った教師の意図的・計画的な指導が不可欠である。同時に予期せぬトラブル・事件もまた、日常的に生じるが、いずれも教師として欠かせない指導課題である。事例をもとに、受講者相互の討論も交えてともに学び合いたい。そのために、受講生の積極的な授業参加を期待する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践をしてきた。また校務分掌の責務も果たしてきた実務経験を活かし、教職の意義や教員に求められる資質・能力についての指導をする。

備考

学校の教育現場の諸問題、とくに不登校・問題行動・進路の問題、進学および就職に関して関心を持ち、平日頃から新聞・雑誌・文献・ネットなどを通して知識や情報を得ておくこと。

開講方法について
この科目は、対面授業を原則とする科目である。そのため、オンデマンド授業の開講はありません。

新型コロナウイルス感染症などの学校感染症の影響で一時的に通学が困難となった場合について
当該学生には、通学停止期間中の双方向授業の講義資料の配布、通学停止期間中に提出期限が設定された課題の別途提出許可などを実施する。詳細は、教員の指示に従うこと。
なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスが修正される可能性がある。